

事業所名	グループホーム宗堂さくら苑 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成16年6月11日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 民間教育機関講師 資格・経験 介護支援専門員登録・ホームヘルパー2級・難病患者ホームヘルパー研修終了 B:現職 介護支援専門員 資格・経験 介護支援専門員登録・介護福祉士・ホームヘルパー2級
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 宗堂さくら苑の目指しているグループホームは～「生きていて良かった」住み慣れた地でその人らしくありのままに穏やかな共同生活を送れるように支援するところ。～である。この理念はホームの各階に掲示されており、入居者並びにスタッフに徹底されている。介護主任の話から、「痴呆や病気の後遺症・進行によって重介護になった方でも尊敬を持ち、人として普通の生活が送れるように援助している」とのことであった。「コミュニケーションが難しくなった方であっても、毎日の介護の中で言葉ではなく、表情などで気持ちが伝わる。」と介護に対する熱い想いを聞いた。実際に車椅子が必要になった入居者の方が多く、スタッフは「普通の生活」を大切にしながら介護の専門性も発揮していた。入居者に対して「痴呆」をひとつの個性と捉え、対人間としてスタッフは常に平等に接する姿勢である。また、徹底した「利用者本位の介護サービスの提供」に努めている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 重介護になりベット上の時間が多い入居者は、リビングの近くの部屋にし、孤立しない工夫をしていた。季節の飾りや入居者の習字・絵などの作品を壁に配置し、家庭的な雰囲気である。全体的に清潔感があり、明るいイメージである。各居室には個人の馴染みのものが置かれたり飾ってあり、それぞれが落ち着ける空間作りがなされていた。ホームの広々とした間取りが、とてもオープンな雰囲気をかもし出している。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人のできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
①近藤内科(外来診療 療養病床 通所リハビリ)に併設されており、医療との連携がとれている。 ・毎朝ドクターが夜勤スタッフから入居者の状態の報告をうけ、往診を行い入居者の健康管理を行なっている。 ・夜間の救急時にも病棟の看護師がすぐに対応できる。 ・医療との連携をとりながら要介護度が進行し要介護5になっても特別養護老人ホーム等の移動を要請することなく、最期の看取り(ターミナルケア)までホームで暮らすことが出来る。 ・要介護度の進行予防として医療スタッフとの連携したりリハビリを積極的に行なっている。 ②事務長と管理者による労務管理が徹底できており、入居者の処遇に関しては管理者が先頭となりスタッフ育成・人材教育に特に力を入れている。 ・スタッフ全員が痴呆介護実務研修などを積極的に受けている。 ・自主評価をスタッフ全員が行なうことにより、グループホームのあり方や処遇の改善に力をいれている。 ・現場スタッフの声を大切にしながら介護のあり方を常に考える姿勢を持ち、スタッフ全員の方向性を一致させることで安定した介護サービスを提供している。 ③施設、設備が充実している。スペースも十分に安全な空間が確保できている。 ・ホームエレベーターの設置など入居者の身体状況への配慮ができています。
特に改善の余地があると思われる点
(現在の入居者の身体状況では不可能と思われる点が大いいため、今後の状況に応じて必要があれば) ホームとしても課題としてあげているとおり、将来的には入居者が外部に買物に出かけられるような機会があることを望む。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援		○
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの方と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 「重度で、会話だけではコミュニケーションが取りにくい方でも毎日の介護の中で気持ちが通じます。また人間らしく普通の生活が送れるように心がけています。」という主任の言葉から利用者の人格を尊重した介護サービスを提供し、人間としての尊敬を大切にしている様子が伝わりました。第三者として嬉しく感じました。趣味を発揮できる機会をつくり、入居者の作品を室内に飾っている。排泄の自立が困難な入居者に対しては、昼間はトイレ誘導を行い自然な形でトイレでの排泄助がされていた。スタッフの言葉遣いが優しくまたユーモアがあった。幼児語ではなく人格を尊重しながらも親しみのある呼び方や言葉かけが実行されており、接遇に対する高度な姿勢が伺えた。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 管理者と主任を中心にスタッフが痴呆介護への研修を重ねており、向上心がある。プロとしての介護サービス提供に努めている。 職員は常勤を基本とし、妊娠などの理由で常勤勤務が困難な職員に対しては半日勤務にするなど労働環境への配慮があり、やりがいを持って働きやすい現場であるよう事務長による労務管理が徹底できていた。スタッフの充実がよりよい介護サービスの提供につながるという考えからである。介護の中での問題が発生した場合などは、事務長・管理者・スタッフで具体策を話し合い、入居者の尊敬を大切にすることを基本に介護の工夫やあり方について常に話し合われている。痴呆が進行し重介護の入居者が増える中で、主任の「ミニ特養(施設)にならないよう心がけている。普通の生活が出来るように援助したい。」と言われた言葉が心に残った。普通の家庭生活を送ることのすばらしさと難しさを感じていることが伺える。また「グループホーム」の担うべき役割が十分理解できていることの象徴であると感じた。過去の経験や苦勞を今後の介護サービスに活かす努力を心がけており、問題が発生した場合などは、詳細な記録を残す姿勢である。		